

地区安全ニュース：九段線と中国外交

漢和防務評論 20150202 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

中国の地図は、南シナ海のほぼ全域を、まるで中国の主権が及んでいるように、九つの破線で取り囲んでいます。紹介した新聞記事や地図をご覧になった方は多いと思います。漢和防務評論によると、中国政府内でもこの九段線主張に異論があり、中国外交部が疑問を呈しているのに対し、軍が強硬であると述べています。現在中国の九段線を承認するアジアの国は存在しませんが、唯一南半球のアルゼンチンだけが中国の立場を”全面支持”しています。フォークランド諸島に対するアルゼンチンの主張を中国が認めるための交換条件として。南シナ海で難破沈没した船の数は古代から数えると1000艘以上という中国の記事を見たことがあります。中国船は、沈没船から文物を引き揚げる際、金目になるものとならないものを現場で仕分けして金目にならないものは現場で投棄しているとのこと。略奪ですね。文物略奪も九段線設定の目的のひとつか？なお2010年発行の中国地図出版社の世界地図集ではフォークランド諸島については、係争中との表記がなされています。

KDR 香港特電：

中国外交消息筋が KDR に語ったところによると、中国外交部内部で、九段線の設定と対応に関して、他の利益集団すなわち中国軍隊と意見の相違があると言う。すなわち軍が強硬であるようだ。中国外交学者は、九段線の設定は、実際に可能なかどうか、次に述べる若干の問題があると考えている：

1. 有効に支配できるのか？現在、フィリピンとの間では、フィリピン側が国際海洋法裁判所に訴える姿勢を示し、中国は受け身の姿勢になっている。
2. 国際的な承認が得られない。このことは外交上の根拠を欠くことを意味する。消息筋によると、中国外交部内部で九段線設定を継続堅持するかどうかが何度も議論している。

習近平時代になり、なぜ外交部の意見が反映されないのであろうか？それどころかますます無謀かつ強硬になっている。例えば、最近ベトナムとの間で発生した海上油田問題は、最終的に中国がプラットフォームを撤収して当面收拾を図った。これは、外交政策で一途に面子を求める中国外交にとって何の利益もなかった。こうなると知っていたなら、なぜ最初からそうしなかったのか？最近成立した国家安全委員会は機能しているのだろうか？これに就いて消息筋は：外交部部長王毅の決定権は制限されている。實際上、習近平外交で大きな発言権をもっているのは、王滬寧と栗戦書である。近年来の外交の成果を見ると、中国外交は”素人が玄人を牛耳っている”と。九段線問題を概観すると、この問題は、東南アジア諸国に影響を与えるだ

けでなく、中国外交全体にマイナスのイメージを与えている。特に米中関係及び日中関係に重大な影響を与えている。

一国の外交政策における主張や構想が、如何なる国家からも支持されないとすれば、その主張は外交的に無効であり、外交の根拠も失う。九段線問題はその典型的な例である。中国の”九段線”を支持する国家はあるのかどうか本誌は訪ね歩いた。まず最初に国際会議等の場で、多くの国の外交及び国防分野の人々と談話の機会を持った。その結果、どの周辺国も九段線の存在を認めなかった。

KDR は、まず最初に中国に最も友好的で親近な国家から着手した。せめて 1 国だけでも九段線を承認してくれれば、中国にとって有利となる。

最初はパキスタンである。最近 **KDR** が掲載したパキスタン外交高級官員の談話では、九段線の承認について明確な言及を避けた。彼は、ただ単に対話によって平和的に解決するよう希望することを強調した。パキスタン外交部は、未だかつて九段線を正式に承認したことは無い。これは当然である。なぜなら九段線問題はパキスタンにとって国家利益に直接の関係は無く、しかもパキスタンはイスラム国家のインドネシア及びマレーシアの外交利益を考慮しなければならないからだ。南シナ海で中国との対立が最も小さいインドネシアでさえも、外交官はシャングリラ会議において九段線に疑問を表明し、「航行の自由に影響を与え衝突を招く」と述べ、さらに「インドネシアもこれを度外視することは出来ない。また九段線は、小さいがインドネシアの一部の島嶼を獲りこんでおり、”人々を不安にし、意図を解しかねている”」と述べた。南シナ海でのロシアの立場は、パキスタンとほぼ同じである。九段線問題を避けている。ロシア国防副部長のアントノフは、**KDR** の取材を受けた際に「ロシアは中越ともに友人であり、海上の紛争を友好的に解決することを望む」と述べた。九段線に対する立場を表明したロシア外交官は一人もいなかった。北朝鮮も同じだった。中国と友好的な東南アジア国家はどれか？ミャンマー及びカンボジアか。しかし **KDR** を驚かせたのは、最近ミャンマー外交官が中国との関係を話す時、言辞が冷淡で九段線及び南シナ海紛争に言及することは無かった。多くの事象から見て、ミャンマーはますます日本、西側に接近しつつあるようだ。ファンボロウ航空ショーで、日本の三菱重工は、ミャンマーのマンドレー航空に 4 機の **MRJ** 旅客機を提供する契約に署名したと述べた。一説によると、今回採用したのは、日本の低金利借款方式による購入と言う。ほぼこれと同時に中緬鉄道協力計画が、今年に入って頓挫している。いつ再開されるか？ミャンマーからの返答は無かった。それ以前にも中緬密松水力発電所の建設計画が停止している。軍事協力においても、2013 年以来、ミャンマーは中国からの軍事装備の輸入交渉を中止し、元々あった諸々の事業も停止している。それには長距離ロケット砲等々も含まれる。中国は、ミャンマー軍事政権を数十年の長期にわたって支持してきたが、サイコロの裏目が出た状況だ。南シナ海問題でミャンマーは ASEAN 国家として中国の立場を支持しないだけでなく、2014 年 11 月、ASEAN 外相会議が中国の南シナ海での新捕鯨規則制定に憂慮を表明した中にミャンマーも含まれていた。これは漁業法に関わる問題であるが、実際上は、九段線設定布石のため中国が探りを入れてきたの

である。したがって ASEAN 外相非公式会議は中国の捕鯨新規則に反対した。このことは九段線を承認しないという点で共通認識を得たことを意味する。

中国は、せめて 1 国だけでも中国の主張を理解してもらうため、近年来カンボジアに対し大量の経済、軍事援助を行ってきた。しかしカンボジア外相は、シャングリラ会議において未だ九段線支持の言論を公開したことはない。当然出来るはずがない。なぜならカンボジアは、このことでベトナムの機嫌を損ねたくないからだ。シャングリラ会議での公開談話及び質問に対する回答を総合すると、カンボジアの基本的スタンスは：関連する問題は関連する 2 国間で解決すべきで、多国間の問題にすべきでなく、国際化にも反対する、と主張している。この主張はすでにかなり親中の意見である。したがって九段線に直接関わる周辺国家間では、如何なる国家も中国の主張に賛成していない。

しかしある種の外交の動向に注意する必要がある。全世界でアルゼンチンだけが中国の南シナ海での主張を”全面支持”している。交換条件として、中国はアルゼンチンのフォークランド諸島の主権要求を支持している。アルゼンチンの”全面支持”の意味は、中国の九段線の主張を理解できるという意味である。これは英国の機嫌を損ねた。当然、中国はその他の外交ソロバンをはじいている。その理由は、英国が南シナ海周辺の「5 か国防衛取決め」の調印国であり、これが軍事同盟ではないとしても防衛協力を強化する性質を含んでいるからである。中国のフォークランド諸島に対する態度は、英国の南シナ海及び香港問題に対する姿勢への牽制である。たとえアルゼンチンが九段線を支持したとしても、九段線の合理性を確保し、中国の外交的立場を高めるほどの力にはなり得ない。フォークランド諸島問題は九段線問題と状況が大きく異なっており、むしろ中国にとって教訓とすべきことかもしれない。フォークランド諸島問題では、ブラジル、ラテンアメリカ・カルビ海国家共同体、ウルグアイ、パラグアイなどおよそ全ての南米国家がアルゼンチンを支持していた。当時のソ連は言うまでもない。現在の東西関係においては、ロシアはこの問題で英国と同じ側に立つことはできない。プーチンはこの 7 月にアルゼンチンを訪問した際、マルビナス諸島主権問題でアルゼンチンの立場を支持することを公表した。国際法からも外交の基本原則からも、世界の国家の半分がアルゼンチンの主権要求を支持しているのであれば、アルゼンチンの主権要求は外交上の有効性を持つことが出来る。

だが 1 国の領海主権主張が、単に万里も離れた 1 国だけが支持する状況とは一体何なのか？

以上